

事例 2 社会保障教育に関する授業

科目「公共」
主として経済に関わる事項

テーマ	持続可能な社会保障について考えよう
単元等	財政の役割と社会保障
ねらい	● 財政や社会保障に関する資料を活用し、少子高齢社会における持続可能な社会保障の在り方について多面的・多角的に考察する活動を通して、社会保障が自己の在り方生き方と密接に関わっていることを理解する。
概要	● 異なる世代や社会的役割等の視点から少子高齢社会における財政と社会保障の在り方について考察する。予算編成シミュレーションツールや関連する資料等を活用し、「持続可能な社会保障制度はどのように実現できるか」という問いに対してグループで協議し、まとめた内容を発表する。
使用する教具等	1人1台端末、電子黒板、ワークシート

● 指導者 ● 生徒

学習の流れ	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ■ 【問い】・持続可能な社会保障制度はどのように実現できるだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ● 財政の仕組みと課題について既習事項を復習する。 ■ 考察1 異なる世代や社会的な役割、立場において必要な政策にはどのような違いが見られるか。 <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒を4名程度のグループに分け、くじ引きで各グループの役割等を設定する。 【例】20代、40代、70代、高校生、主夫・主婦、障害者、会社員、自営業者 ● 各グループの立場から、必要とされる政策を考察し、予算案を作成する。 →財務省「予算編成シミュレーション」を使用 ● 各グループの立場から、必要とされる社会保障の在り方について協議する。 →論拠となる資料を1点以上使用してプレゼンテーション資料を作成する。
	第2時	<ul style="list-style-type: none"> ■ 考察2 持続可能な社会保障を実現するために、対立する利益をどのように調整するか。 <ul style="list-style-type: none"> ● 各グループの意見を発表する。 ● 各グループの意見を全体で共有し、公平・公正の視点から考察し、協議する。 ● 持続可能な社会保障の実現に向けて考察、構想した内容を各自ワークシートに記述する。

☑ 授業のポイント

様々な立場から社会保障の在り方について考察することにより、社会には、様々な権利や利益の対立が見られることを理解する。

課題の解決を学習の目的とせず、「答えが一つに定まらない問い」に対して、多面的・多角的に考察、構想する過程を通して、論理的な思考力や公正な判断力を身に付けるとともに、よりよい社会の形成に向けて主体的に関わろうとする態度を養う。

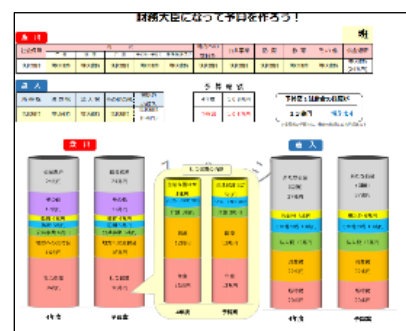
📁 関連資料等

【教材等】

- 財政教育プログラム（財務省）
https://www.mof.go.jp/public_relations/zaisei_kyouiku/index.html
- 社会保障教育（厚生労働省）
<https://www.check-roudou.mhlw.go.jp/tobira/index.html>
- 金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは—（金融広報中央委員会）
<https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/program/>

【出前講座】

- 金融経済教育（日本FP協会）
https://www.jafp.or.jp/personal_finance/high/inst_disp/
- 金融教育プログラム（近畿財務局）
https://lfb.mof.go.jp/kinki/212_00002.html



予算編成シミュレーション（財務省）



金融教育と関連付けて展開し、自助、共助及び公助の最適な組み合わせについて考察、構想させる展開も考えられる。（写真は日本FP協会 出前講座の様子）